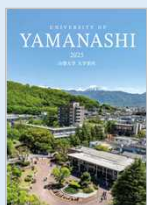


山梨大学の公式Webサイトから、次の情報もご覧いただけます。

大学案内

各学部での学び、海外留学、進路情報等について紹介しています。



山梨大学データ版

山梨大学の組織、教職員数、学生数などの基本的な情報を掲載しています。



広報誌「Vine」

Vineはブドウのつるに由来し、本誌を山梨大学を知るための情報網のひとつとして活用してほしいという意味が込められています。



基金のご案内



教育研究支援基金

本学の教育研究活動の充実、修学環境整備事業、国際貢献事業、地域社会貢献等事業及び奨学金事業（経済的な理由で修学が困難な学生に対する支援）への支援を行っています。



大村智記念基金

本学の大村智特別栄誉博士（2015年ノーベル医学・生理学賞受賞）のご功績を末永く顕彰するとともに、同博士に続く次世代の若手研究者等の育成を推進するための事業への支援を行っています。

各基金の詳細は山梨大学基金ホームページをご参照ください。
ホームページから寄附のお申し込み手続きができます。

TEL 055-220-8358
(山梨大学基金事務局)

<https://www.yamanashi.ac.jp/about/19058>



パソコンは

山梨大学 基金



スマホは

こちらから



山梨大学統合報告書 2024

INTEGRATED REPORT 2024



「地域の中核、世界の人材」

山梨大学は、豊かな教養と高い倫理性を持ち、広い教養と深い専門性を身につけた学生・教職員を育むことにより、知と技術における「地域の中核」となると同時に世界の平和と人類の福祉に貢献できる「世界の人材」を養成することを目標としています。

Contents

- 1. 沿革 … P3
- 2. 価値創造プロセス … P5
- 3. 活動実績
 - ・教育 … P7
 - ・研究 … P13
 - ・地域連携 … P19
 - ・医療 … P25
- 4. その他の実績 … P29
- 5. ガバナンス体制 … P31
- 6. 財務情報 … P33

学長挨拶

山梨大学は、教育学部・医学部・工学部・生命環境学部の4つの学部と、医工農総合教育部・教育学研究科の2つの大学院を有する総合大学として、約4,700人余りの学生が2つのキャンパスで学んでいます。本学は、「地域の中核、世界の人材」をキャッチフレーズとして、知と技術における「地域の中核」となると同時に世界の平和と人類の福祉に貢献できる「世界の人材」を養成することを目標として教育研究活動を展開しています。



現在我が国は、少子化やグローバル化の進展、AIやDXなど科学技術の発展により、大きな変革期を迎えており、大学もこれらへの対応が求められています。本学では、入試の見直しや新たな教育プログラムの設置などの取組を進めているほか、山梨県立大学をはじめとする他大学との教育連携を推進しています。山梨県立大学との連携では、連携開設科目の開設など、学びの選択肢を広げる取組を進展させています。

研究面においては、クリーンエネルギー、先端脳科学、ワイン科学、発生工学を始めとする幅広い分野の研究を企業、教育機関、行政、金融機関の協働で進め、多くの研究成果を社会に還元しています。

本学の卒業生で、ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智博士は、人類の健康と福祉の増進に大きく貢献されました。本学は、大村博士のように、国内外における諸課題への解決に積極的に挑戦し、未来を切り開くことのできる人材育成を目指しています。

引き続き本学へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人山梨大学 学長

中村 和彦

1795(寛政7年)
山梨大学のルーツとなる「**徼典館**」が設置

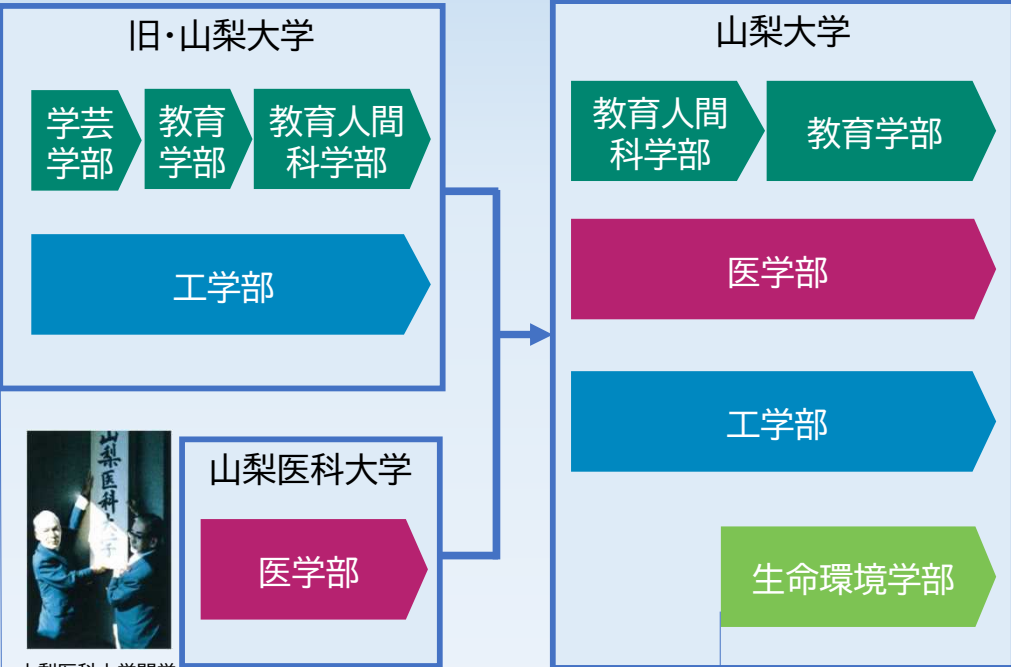


1949(昭和24年)
旧・山梨大学開学
山梨師範学校と山梨青年師範学校を学芸
学部、山梨工業専門学校を工学部とする

2002(平成14年)
旧 山梨大学と
旧 山梨医科大学を
統合し、**山梨大学が開学**



山梨大学開学



1978(昭和53年)
山梨大学構内にて**山梨医科大学開学**

1795 (寛政7年) 1921 (大正10年) 1924 (大正13年) 1949 (昭和24年) 1978 (昭和53年) 2002 (平成14年) 2012 (平成24年)

データでみる山梨大学

■ **組織規模**

学部・研究科等

4 学部

2 研究科

1 専攻科

10 附属施設

■ **教職員数** (2024年5月1日現在)

全体 **2,230**人

役員 **10**人

教員 **837**人

職員 **1,383**人

■ **学生数** (2024年5月1日現在)

学部学生 **3,854**人

大学院学生 **935**人

■ **国際交流**

国際交流協定 **81**件 (2024年4月1日現在)

留学生 **214**人 (2024年5月1日現在)

■ **所有** (2024年5月1日現在)

土地面積 **544,792**m²

建物面積 **286,586**m²

医学部附属病院 (2023年)

病床数 **618**床

入院患者延数 **179,937**人

外来患者延数 **330,743**人



山梨大学の価値創造プロセス

INPUT

- ✓ 財務資本
総資産 823億円
経常収益 430億円
- ✓ 人的資本
教職員 2,230人
学部生 3,854人
大学院生 935人
- ✓ 知的資本
受託研究 446件
共同研究 136件
論文数 594件
- ✓ 社会資本
連携協定数 (国内) 51件
連携協定数 (海外) 81件
留学生 214人
- ✓ 自然資本
土地面積 544,792㎡
エネルギー使用量 286,586J

VISION&ACTION

改革と機能強化の推進

- 教育
- 研究
- 地域連携
- 医療
- 経営

● 教育改革の推進

- ・大学等連携推進法人「一般社団法人大学アライアンスやまなし」の活用による教育連携等の強化
- ・学修者本位の教育による教育の質の改善
- ・DXを活用した学生支援
- ・グローバル化の推進

● 研究支援体制の強化

- ・クリーンエネルギー、先端脳科学、発生工学、ワイン領域の研究を重点的に支援し、グローバル展開を推進
- ・新たな研究領域の開拓・強化
- ・全学的な研究力の強化のための制度整備

● 地域連携等の強化

- ・地域医療、少子化など地域が直面する課題に対し、多様なネットワークの活用や新たな連携体制等を構築
- ・地域ニーズを十分に踏まえた人材の育成機能を強化

● 経営基盤の強化

- ・外部資金の獲得に向けた取組等の強化
- ・附属病院経営の機能強化

● 改革の推進

- ・教職学協働による改革の推進

OUTPUT

OUTCOME

山梨大学が目指す姿

地域の中核、世界の人材

教育研究を通じた社会貢献
世界に発信できる高度な研究推進
世界で活躍するグローバル人材の育成
地域人材の育成
国際貢献

持続的成長の好循環

教育

未来志向のグローバル人材の育成

「地域の中核、世界の人材」というキャッチ・フレーズを掲げ、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担うことのできる、高い知的能力と道徳意識をもち、国際的にも活躍できる人材の育成を重要な使命としています。

学生の選択肢拡大に向け、「一般社団法人大学アライアンスやまなし」をはじめとした他大学との教育連携等の強化や、入学から卒業後までの一体的な教育やDXを活用した学生支援を実施しています。

学部

大学院・専攻科

教育学部

教育学研究科 (教職大学院の課程)

■ 教育実践創成専攻

医学部

医学科

看護学科

医工農学総合教育部 (4年課程)

■ 医学専攻

工学部

医工農学総合教育部 (修士課程)

■ 生命医科学専攻

■ 看護学専攻

■ 工学専攻

■ 生命環境学専攻

生命環境学部

医工農学総合教育部 (3年課程)

■ ヒューマンヘルスケア学専攻

■ 工学専攻

■ ■ ■ 統合応用生命科学専攻

活動実績（教育）

大学アライアンスやまなし

（大学等連携推進法人の認定）



教育・研究に係る連携事業を通じて、地域を支える人材育成やイノベーションの進展に寄与し、地域の発展を目指す

山梨大学と山梨県立大学は、令和元年12月18日に「一般社団法人 大学アライアンスやまなし」を共同で設立しました。

本法人は、様々な教育・研究に係る連携事業を通じて、地域を支える人材育成やイノベーションの進展に寄与し、地域の発展に資することを目的としており、大学間連携を通じて、教育、人材育

成、研究及び運営に係る各種事業を円滑に実施できる仕組みを構築するものです。

令和3年3月29日には、文部科学大臣より、大学設置者の枠組みを越えた連携や機能分担を促進するために新設された制度である「大学等連携推進法人」の全国初となる認定を受けました。これにより、教学上の特例措置を活用した事業が可能となるなど、連携事業の幅が更に広がりました。

今後は、本連携事業において培った成果を山梨県全域に波及させ、山梨県における高等教育のレベルアップに寄与していきます。

主な取組

・「連携開設科目」の開設

連携大学の科目でも自大学の科目とみなし、履修できる制度

実績（令和6年度）

山梨大学主幹科目 110科目（山梨県立大学の受講学生数 213名）

山梨県立大学主幹科目 77科目（山梨大学の受講学生数 249名）

計187科目で延べ462名の学生が受講

【目指す未来】

未来社会を切り拓くグローバルな人材の育成

連携事業の成果を山梨県の高等教育機関に普及させ、地域創生に貢献

地域活性化人材育成事業～SPARC～

（大学等連携推進法人を基盤とした補助事業）

地域社会と大学間の連携を通じ、既存の教育プログラムを再構築し、地域が真に求める人材を育成する

「知（地）のソーシャルキャピタル～学びの山梨モデル～構築事業」が地域活性化人材育成事業～SPARC～に採択されたことを受け、山梨大学および山梨県立大学では、地域と大学が一体となり、在学生、高校生、社会人に対して一貫した学びを提供する仕組みである「学びの山梨モデル」の構築を目指しています。本事業の目的を達成するため、山梨大学では、令和10年度に3つの特別教育プログラムを合わせて「学部等連係課

程」を開設する予定です。山梨県立大学では、地域のニーズを踏まえ、ものづくりを主眼とした文理融合教育やヒューマンサービスにおけるDX人材の育成教育を導入すると共に、工学系の新学科設置に向けて検討しています。



地域活性化人材育成事業～SPARC～とは？

大学等が地域の中核として機能していくため、地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し、地域が真に求める人材を育成する機関に転換することを目的とした事業（文部科学省Webサイトより抜粋）

主な取組

・STEAM教育の推進

連携開設科目のメリットを活かし、文系・理系問わずトレンドに沿ったSTEAM教育を展開

・地域連携プラットフォームの運営・活用

“地域人材養成推進会議”を設置し、そこでの議論等を教育プログラムの開発・試行、新設する学部等連係課程及びリカレント教育プログラムへ反映

・社会人を対象とした教育プログラムの推進

地元ニーズに応えるリスキル・リカレントプログラムの開催と共に、県内で学修機会へとつながるイベント・シンポジウムに対して共催や後援の形で参画

・高校、大学、企業との教育接続

世代を超えた参加者によるプロジェクト共有の場「フューチャーEVO」を運営し、学びの場を校に地元の高校・企業が連携する体制を確立し、教育成果を地域に波及・還元

【目指す未来】

地域を牽引する地域リーダー・産業中核人材を持続的に育成するシステムの構築

全学共通教育改革（全学共通教育科目の再編）

変化する時代に対応するための力を養うため、全学共通教育科目の全面刷新を行う

論理的・批判的な思考力・共創協働による問題解決力・生涯にわたって主体的に学び続ける力を養うための教育改革、個々の学生に寄り添った学習支援環境の提供による学びの個別最適化の推進、学習者主体の教育への転換、ますます進むグローバル化へのさらなる対応などに向けて、令和7年度以降の入学生を対象にした全学共通教育の全面刷新を行います。

育の全面刷新を行います。この新しい全学共通教育では、文理を問わず分野横断で問題解決に取り組む創発PBL科目群の新設や、卒業後に実りある豊かな生活をするためのキャリア教育・消費者市民教育科目の必修化、グローバル時代に輝くための英語教育の強化、ビッグデータ・AI時代に必須のデータサイエンス・AIリテラシー教育など、本学の卒業生が今まで以上に輝き活躍するために様々な工夫をこらした教育を企画しています。

ポイント

従来の全学共通教育科目を6つの科目群に再編する。現行の教養教育科目を再編する「**学術科目群**」と新設の「**創発PBL科目群**」が大きな変更点

⇒ 学生の「生きるチカラ・知るチカラ・解決するチカラ・語るチカラ・考えるチカラ」を育む



学術科目群

困難な時代を生き抜き、社会をより良くする力を身につける

ライフスキル科目群

心身ともに健康な生活を送るための基本的な知識とスキルを身につける

外国語科目群

英語教育の強化、選択外国語教育を通じた異文化理解の促進

創発PBL科目群

様々な学部学科の学生が多様な感性や考え方を交え、自分の人生でどう活かすかを学ぶ

情報・数理科目群

身近な問題や各自の学問分野にデータサイエンスを活用する力を身につける

展開科目群

学生の自律的な学習能力、及び実践的な能力を涵養し、リベラルアーツの実践を後押しする

【目指す未来】

新しい時代に対応した魅力的な全学共通教育を創出し、地域の中核として世界で活躍する人材を育成

やまなし情報教育推進室

多様化する現代社会において、山梨県の情報教育の一層の充実と振興を図る

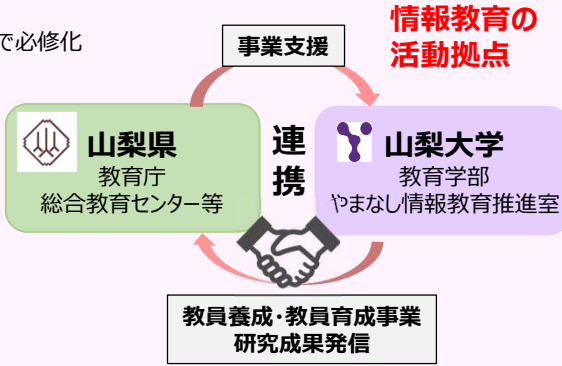
高等学校においては「情報I」の必修化、小学校・中学校においてはGIGAスクール構想により1人1台端末の整備が進み、これからの学校教育

では、端末の効果的な活用により、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育むことが求められるようになっていきます。こうした地域の教育的ニーズに応えるため、山梨大学教育学部では、山梨県の助成を受け、令和5年10月1日、附属教育実践総合センターにやまなし情報教育推進室を開室しました。

ポイント

- ・ 高等学校の「情報I」必修化（R4～）
- ・ R7年度共通テストより「情報」が国立大学で必修化

2023年(令和5年10月1日)
山梨県の助成を受け、教育学部に「やまなし情報教育推進室」を開室



主な取り組み

教員育成事業

- ・ 情報の免許法認定講習の開講（R6年度39名受講）
- ・ 令和5・6年度連続で文部科学省「新たな教師の学び」に対応したオンライン研修コンテンツ開発事業を受託し、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員向けのオンライン研修動画を制作
- ・ 山梨県総合教育センター研修会や各学校の校内研修等に推進室教員を派遣

教員養成事業（学部・大学院）

- ・ 高等学校の「情報」免許課程を開設し、「情報」免許取得教員の養成開始
- ・ 学部段階での情報教育の充実（カリキュラムの体系化・ICT支援学生の研修と附属小中学校への派遣）

研究推進事業

- ・ 「やまなしメソッド」の構築と普及
- ・ 教育課題（いじめ・不登校・病弱等）に資するメタバース空間の開発

【目指す未来】

山梨県と連携し、大学や県内のリソースを情報教育に最大限に活用することで、山梨県における情報教育の推進拠点に

研究

山梨大学の特色ある研究

地域社会の発展に寄与する教育の理論と実践の融合

教育学域

地域の教育課題に対応するための教育方法の開発や、現場での実践的な指導法、特別支援教育や教育心理学等に関する研究を行っています。ICTを活用した教育技術に関する研究等も進めており、未来の教育環境の構築に貢献できる研究成果の創出を目指しています。

基礎から臨床へ、最先端医療技術と地域医療の向上を目指す

医学域

がん治療や再生医療、脳疾患、免疫学、放射線医学等に関する先駆的研究を実施、最新の医療技術を駆使した治療法の開発、疾患機序の解明と、生命科学の神秘・謎に迫ります。また、山梨県の中核医療機関として、地域医療や公衆衛生に資する研究を実施しています。

持続可能な社会を実現する多様な技術革新

工学域

クリーンエネルギーや環境保全技術、ナノ材料・機械工学等に関する研究を行っており、生まれた研究成果は、再生可能エネルギーの利用促進・開発、環境負荷の低減に大きく寄与しています。また、情報通信技術やAI・ロボティクスの分野でも先端的研究を進め、地域社会・産業界との連携を重視した研究を実施しています。

地域コミュニティから地球環境まで、自然と社会の共生を探究する

生命環境学域

生命科学をはじめ、農学や環境科学、社会科学に関する広範な研究を実施し、特に、フィールドワークによる実践的な研究が特徴です。農学や食品科学の分野では、山梨県の重要な産業であるワイン科学研究や農業振興、食に関する研究を実施しています。地域社会から地球環境をまですカバーする、あらゆる資源の効率的かつ持続可能な利用、課題解決を目指しています。

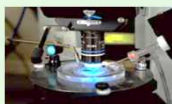
水素・燃料電池/
クリーンエネルギー
研究



国際流域
環境研究



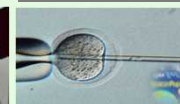
GLIA・
免疫学研究



地域防災・
マネジメント研究



発生工学研究



クリスタル
科学研究



ワイン科学研究



有用微生物研究



**世界トップレベルの
学術研究の推進**

活動実績（研究）



クリーンエネルギー研究

水素や太陽光を有効活用 する研究でクリーンエネルギー の未来を拓く

水素を作る水電解や、水素を燃料とする燃料電池自動車用などの燃料電池を、高効率・高耐久・高出力・低コスト化するための電極触媒や電解質材料、それらを有効に働かせるセル技術を研究しています。また、太陽光を化学エネルギーに変換する人工光合成、すなわち光触媒を用いた水分解による水素製造や二酸化炭素還元による有用物質合成の研究も行っています。試作した電極触媒や電解質材料の性能は、実際に水素を用いた発電をして評価しています。さらに、水素・燃料電池ナノ材

料研究センターとクリーンエネルギー研究センターにある多くの評価装置を用いて、様々な新しい材料の性能や耐久性の評価を行っています。このように、世界的な水素・燃料電池の研究拠点として、産学官連携強化や、水素社会実現に向けたグリーンエネルギー分野を牽引する研究者・技術者の育成に取り組んでいます。



水素・燃料電池電動アシスト自転車試作機

【目指す未来】

クリーンエネルギーに関する研究を推進し、省エネルギー、地球環境問題の解決に貢献する



GLIA・免疫学研究

「グリア細胞」に注目し、脳機能 の基本原理及び各種脳疾患の 解明に取り組む

脳の未解決な部分を解く鍵として「グリア細胞」が注目されています。「山梨GLIAセンター（NGCC山梨）」は、このグリア細胞に注目して「脳・グリア・免疫研究」を展開する世界初の研究センターです。グリア細胞を研究することにより、新しい脳の基本原理の解明や脳疾患の新しい治療法開発を目指します。

またグリア細胞は脳と末梢臓器・細胞を繋ぐ役割を持っていることから、脳が免疫細胞などの末梢細胞を制御する新しい仕組みの解明も期待されています。

「GLIA」は、グリア細胞の他「**GL**ocal **I**nterdisciplinary **A**cademy」、さらに「繋ぐ」という意味が含まれています。文字通り、山梨から世界を見据え、異分野を繋いだ研究が進んでいます。



「ニューロン-グリア クロストークセンター山梨（NGCC山梨）」完成予定図
（令和7年2月完成予定）

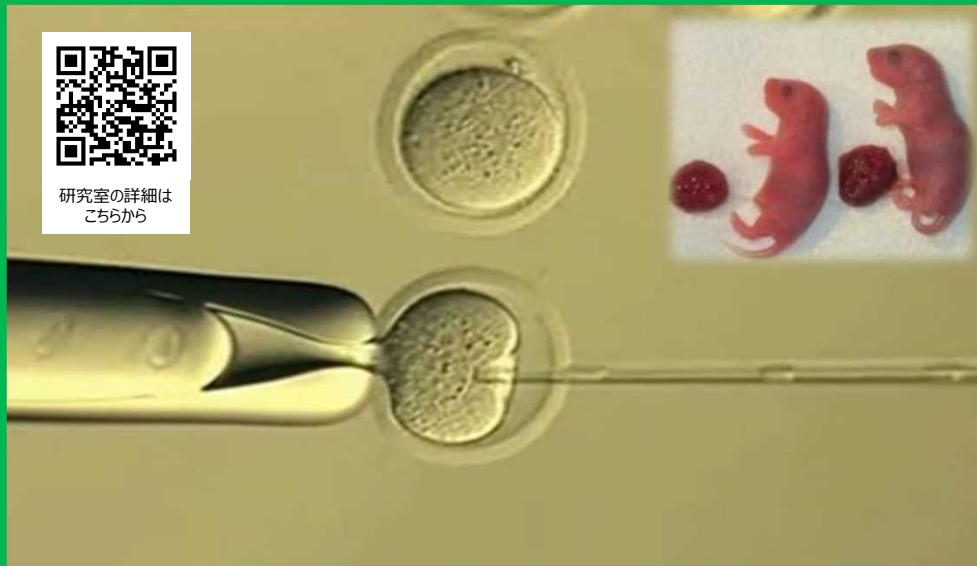
【目指す未来】

山梨GLIAセンターを中心に脳・グリア・免疫研究を進めることで、新しい脳の仕組み、疾患の原因を解明する

活動実績（研究）



研究室の詳細は
こちらから



発生工学研究

発生工学技術を駆使してクローン動物の原理の解明や宇宙ステーションでの生殖を目指す

発生工学研究に必須であるマイクロマニピュレーターという特殊装置を15セットも有する、世界最大の研究施設です。この装置を駆使し、絶滅動物や絶滅危惧種をクローン技術で復活・救済することを目標とした基礎研究や、精子を卵子に注入し受精させる顕微授精技術を用いた、不妊治療に貢献する新技術の開発を行っています。また、精子をフリーズドライにし、常温・長期間の保存を可能にする「インスタント精子」の研究では世界を大きくリードしており、動物の遺伝資源である精子や受精卵を、どこでも簡単に保存できる方法を開発しています。

更に、人類が宇宙に進出する将来を見据え、無重力や宇宙放射線が人類の生殖や次世代に与える影響を解明するために、実際に国際宇宙ステーションにマウスの精子や受精卵を打ち上げ、宇宙での研究も行っています。



（左） 若山発生工学研究センター長
（右） 山中京都大学iPS細胞研究所名誉所長

【目指す未来】

クローン技術の応用研究、宇宙生殖の生物学研究により、クローン動物の原理の解明や宇宙ステーションでの生殖を目指す



研究室の詳細は
こちらから



ワイン科学研究

日本一のワインの産地・山梨で世界レベルのワイン製造技術を学ぶ

日本一のワインの産地「山梨」において、1947年からワイン科学教育・研究を推進し、日本のワインに関する教育と研究をリードしてきました。地域～日本～世界的な視点でワインを捉え、原料ブドウからワイン製造までの一貫した教育・研究によって、成長著しい「日本ワイン」をさらに世界レベルへ発展させることを目指しています。長い歴史をもつワイン科学研究センターでは、原料ブドウ、醸造に関わる微生物、ブドウ・ワインの成分、ワイン醸造に関わる諸問題について、4部門の研究者らと

学生たちが基礎研究から応用研究まで様々な研究を行っています。現在も多くの卒業生が、ワイン科学研究で培った力をブドウやワインを含め食に関わる幅広い分野で発揮し活躍しています。



山梨大学ワイン科学研究センターの研究成果・技術が注ぎこまれた7種の「山梨大学ワイン」

【目指す未来】

日本ワインの品質の向上、地域ブランド力の強化、グローバルスタンダード化を推進する

地域連携

産学官金連携を基軸とした地域産業人材の創出

地域医療、少子化など地域が直面する課題に対し、多様なネットワークの活用や新たな連携体制等を構築しています。

また、地域の基幹的大学として「知の拠点」の役割を果たし、地域の発展に貢献するとともに、強みのある分野で世界的な水準の教育研究を推進するため、地域ニーズを踏まえた人材の育成機能を強化しています。

■ 自治体との連携

豊かで活力ある地域社会の形成と振興を図り、相互の発展を目指す

■ 水素・燃料電池関連事業での連携

山梨県、民間企業等との産学官連携により事業化を促進

■ 企業・団体との連携

人材育成およびイノベーションの促進を通じて、2050年カーボンニュートラルの実現に資する技術開発および人材育成（三菱ふそうトラック・バス株式会社）

■ 山梨中央銀行との連携

地域連携コーディネーターの受入れ

■ その他

都留市との連携協定

⇒水素・燃料電池分野での活動を推進

活動実績（地域連携）

産業振興に係る人材養成事業

（リカレント教育講座）

【事業の概要】

山梨大学の強み・特色を活かしつつ、山梨県とも連携し、地域の産業振興に係る人材育成事業を展開

山梨大学のリカレント教育を担当する「地域人材養成センター」を設置

⇒ 社会の要請等に基づき、キャリアアップに向けた学び直しとキャリア形成の一体的支援の施策を推進

【主な取り組み】

産業

「医療機器産業技術人材養成講座」

医療機器に必要な技術・知識等を習得する機会を県内産業界の社会人技術者等に提供するために、平成27年度から“人材養成講座”を開設（やまなし地域活性化雇用創造プロジェクトの一環として実施）。

▶令和6年度までに、160社、197名が修了（認定試験合格者へ“**山梨大学医療機器設計開発士**”を授与）

「水素・燃料電池産業技術人材養成講座」

水素・燃料電池関連技術に関わる必要な知識を習得する機会を県内産業界の社会人技術者等に提供するために、平成28年度から“人材養成講座”を開設（やまなし地域活性化雇用創造プロジェクトの一環として実施）。

▶令和6年度までに、77の企業・団体、185名が修了。

「医療機器産業技術人材養成講座事業化コース」

「水素・燃料電池産業技術人材養成講座事業化コース」

水素・燃料電池及び医療機器関連産業分野を新たな経営の柱にすることを目指す県内中小企業等を対象に、**市場獲得に向けた事業化戦略等を立案できるような人材を育成**するため、人材養成講座に事業化コースを令和6年度に新設。

▶医療機器：令和6年度に6社、8名が修了

▶水素・燃料電池：令和6年度に5社、9名が修了

「水素・燃料電池産業技術人材養成講座入門コース」

水素・燃料電池関連産業の全体像や「水素・燃料電池産業技術人材養成講座」のカリキュラム構成を理解する機会を提供するため、人材養成講座に入門コースを令和6年度に新設。



農業

「ワイン・フロンティアリーダー養成プログラム」

従前の“ワイン人材生涯養成拠点事業（平成19年～26年度）”を基に、**日本ワインの品質の向上、地域ブランド化、グローバルスタンダード化を中核となり推進できる人材養成**を目的としたワイン技術者向けのプログラムを開講。

▶令和5年度までに、146名が修了（認定試験合格者へ“**山梨大学ワイン科学士**”を授与）

※平成28年度から職業実践力育成プログラム（BP）として認定を受け実施。



女性

「女性のためのリスキリングとキャリアアップセミナー」

山梨県内企業や公共機関等で就業中の社会人女性を対象に、座学やワークショップによる学びやメンタリングを通して管理職を目指すためのキャリアデザインを行うとともに、企業女性間のネットワーク構築を目的に実施。

▶令和6年度受講者：25名



情報

「AI・データ利活用スペシャリスト養成講座」「AIハッカソン」

一定程度デジタル技術に素養のある技術者を対象に、県内自治体や企業等における**DX取り組みに必要な先端技術を扱う人材、DXの取り組みを支える人材の増員や技術者相互のスキル向上を促進**することを目的としたスペシャリスト養成講座を開催。

またAIやICTへの更なる興味増進や学びの機会、AI人材を目指す契機、情報通信企業で働く契機の創出を目指し、AIを学んだ学生や社会人などを対象に**生成AIを活用したアプリ開発をテーマとしたハッカソン**を開催。

▶令和6年度養成講座受講者数：23名

AIハッカソン参加者：21名



「AI浸透深化時代を見据えた高度デザイン人材の育成（データサイエンス×デザイン思考）」

R5年7月に採択された「**成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業**」を基に、AI技術の浸透深化時代を担う高度なデザイン人材を育成するプログラムをR5年10月から開講。

▶令和6年度受講者数：22名



【目指す未来】

オープンエデュケーションの推進を通じた教育機会の提供によるリカレント教育への貢献

→ **地域の中核としての「高度な知」を提供する**

活動実績（地域連携）

包括的連携協定（自治体・企業等との連携）

【事業の概要】

自治体・企業との連携協定を締結し、双方の資源の活用や各分野での緊密な連携を図る

「**地域の中核、世界の人材**」の旗標のもと、**地域の基幹的大学として「知の拠点」の役割を果たす**

⇒ 豊かで活力ある地域社会の形成と地域の振興を目指す

【主な取り組み】

自治体との連携

山梨県、甲府市、山梨市、中央紙、北杜市、南アルプス市、甲州市、甲斐市、韮崎市、笛吹市、富士河口湖町、鳴沢村、昭和町、道志村、山梨県警察、峡南5町（市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町）、大月市、都留市、岡谷市 **計23地方公共団体等**



都留市との連携協定締結式(R6.11.18)

企業・団体等との連携

公益法人等：山梨県ワイン酒造組合、甲府商工会議所、山梨県水晶宝飾連合会、富士吉田商工会議所、仲田育成事業財団
企業：山梨中央銀行、甲府信用金庫、山梨信用金庫、(株)東京エレクトロン、タマ生化学(株)、(株)シャトレーゼ、はくばく、シミックホールディングス株式会社、三菱ふそうトラック・バス株式会社
その他：山梨経済同友会・県内5大学、NTTドコモ、(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ、(一社)ヴァンフォーレスポーツクラブ



三菱ふそうトラック・バス株式会社との協定調印式（R6.12.2）

水素・燃料電池関連事業での連携

○FCyFINEの推進

・水素社会に向けた『やまなし燃料電池バレー』の創成

○一般社団法人 FCy FINE PLUS 設立

・カーボンニュートラル社会、水素社会実現に向けて、FCyFINE事業の成果を継承して、さらに発展させていく



甲府市およびFCy FINE PLUSとの連携協定締結式(R5.4.7)

山梨中央銀行との連携

○地域連携コーディネータの受入れ（H28～）

・本学に常駐し、産業界のニーズを吸い上げ、本学が保有する技術シーズと連携させる等、教職員と協働して地場企業の強化やベンチャー企業の育成などの業務に従事

新たな研究開拓の機会創出に向けた取り組み

【事業の概要】

○研究成果である知的財産の戦略的活用により、大学発ベンチャー設立の支援等を通じて、研究成果の社会実装により社会に貢献

○地域のニーズと本学のシーズとのマッチング

研究推進・社会連携機構の改組

⇒ 「知財・社会連携戦略室」にて研究成果の社会実装を推進

【主な取り組み】

「山梨大学発ベンチャー」の創出

研究成果や知的財産をもとにしたベンチャー企業創出に注力。大学に潜在する研究成果を掘り起こし事業化することを目指す。

▶令和6年度時点で8社を認定。



「客員社会連携コーディネータ制度」の創設

自治体や金融機関等とのネットワークを活用。取引先の企業のニーズを引出しながら、本学の産学官連携活動や研究テーマを紹介。本学シーズとのマッチングを効果的に進める。

▶令和6年度時点でコーディネータ数は161名。



「やまなし産学官連携研究交流事業」の開催

山梨県との共同事業として、山梨県公設試験研究機関と連携して産学官の研究成果を紹介。県内外の企業との研究開発の実施を推進。

▶年に1回開催。
令和6年度は約40機関、120名が参加。



【目指す未来】

技術研究水準の向上による、人材育成及び研究成果の社会還元

→ **強固な産学官金連携による地域社会の発展**

医療



人間性豊かな医療人の育成と臨床医学の発展

「すべての患者さんに安心を」を基本理念とし、山梨県における高度医療の中核として、患者さんに良質で最適な医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人の育成と臨床医学の発展に貢献すべく、日々取り組んでおります。

理念

「すべての患者さんに安心を」

基本方針

当院は、高度医療の中核として、患者さんに安全で最適な医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人の育成と臨床医学の発展に貢献します。

目標

- ・ 患者さん中心の医療の提供
- ・ 多職種連携による安全で質の高い医療の実践
- ・ 先進医療の推進と医学の発展への貢献
- ・ 自らの使命と責任を自覚し、豊かな人間性と高い倫理性を備えた医療人の育成
- ・ 地域連携の強化による医療、介護および福祉の向上

活動実績（医療）



山梨大学医学部附属病院
University of Yamanashi Hospital

理念

すべての患者さんに安心を



基礎データ

病床数	618床	診療報酬請求額（総額）	25,282,472千円
診療科数	31診療科	診療報酬請求額（入院）	16,439,583千円
手術件数	6,916件	診療報酬請求額（外来）	8,842,889千円
入院患者数	179,937人	病床稼働率	86.1%
外来患者数	330,743人	平均在院日数	11.3日

※病床・診療科数については令和6年12月時点のもので、その他についてはR5年度実績

【目指す未来】

山梨県の高度医療の中核として、患者さんに安全で最適な医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人の育成と臨床医学の発展に貢献する

コラム

山梨の医療の最前線を支える設備・施設の紹介

ロボット支援手術システム

ダヴィンチ手術システムを用いたロボット支援内視鏡手術では、従来の開腹・開胸手術と比較して患者さんの体への負担が少ないだけでなく、体内深部での難しい剥離や細かい縫合などの精度の高い手術操作が可能となっています。

当院には3台のロボットが備わっており、より安全で高度な手術の提供に貢献しています。



ハイブリッド手術室

ハイブリッド手術室とは、手術台に、多関節アームを搭載した心・脳血管X線撮影装置を組み合わせた手術室のことで、高度な医療技術の実施に対応しています。

2024年12月現在、山梨県では唯一、大動脈弁狭窄症の最新治療法であるTAVI（経カテーテル的大動脈弁植込み術）の施行が可能です。



再整備事業

外来棟新営計画

令和6年度から4ヶ年の計画事業で、老朽化・狭隘化した既存外来診療棟から、外来手術センター等を設置した「**外来機能強化棟**」を敷地南側に新築予定。



建設予定地

- ・ 外来診療科ブースの共通利用による有効活用
- ・ 外来待合スペースの共有による快適な空間の実現
- ・ 機能強化のためのセンターの整備
- ・ 大規模災害への対策とトリアージ機能の充実
- ・ 教育研究における環境の整備

→ 以上の取組みにより、老朽化・狭隘化した現状を改善し、さらには、がん診療や外来手術の充実等、**これからの医療ニーズに合った外来診療の機能強化を図る。**

TOPIC

初期救急医療センターの開設

山梨県の委託を受け、初期救急センターが大学病院内に開設され、2024年5月17日より運用を開始しました。当センターは、主に自力で来院可能な患者様に対し、特に夜間や休日における山梨県全域の初期救急医療のニーズに応えるべく、内科系および外科系の医師2名で23時まで診療する体制を整えております。



その他の実績

工学部創立100周年記念式典を挙行

山梨大学工学部は、大正13年（1924年）設置の山梨高等工業学校に始まり、幾度もの変革の中で発展を重ね、令和6年（2024年）、創立100周年を迎えました。

工学部では、創立100周年にあたり、記念事業として、①創立100周年記念建物の建設 ②中央東門と周辺環境の整備 ③記念式典の開催の3事業を実施いたしました。

このうち、記念式典では、卒業生など本学関係者も含め約130名が出席しました。

中村和彦学長による挨拶、長崎幸太郎山梨県知事、樋口雄一甲府市長、伊藤学司文部科学省高等教育局長による祝辞の後、大村智本学特別栄誉博士から、ご自身の半生を振り返った内容の講演が行われました。

また、大村智特別栄誉博士から寄贈頂くこととなった、ノーベル生理学・医学賞賞状とメダル、文化勲章証書と勲章を含む54点に係る目録贈呈式を行いました。



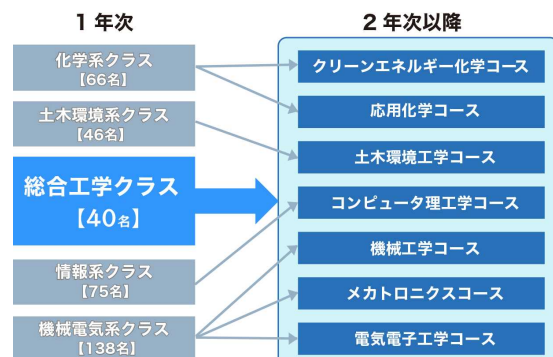
大村特別栄誉博士による講演の様子



記念品（目録）の贈呈

工学部の改組を実施

山梨大学工学部は、多様化する新たな社会に貢献できる工学系人材を育成することを目標として、令和6年4月より、学部体制や教育プログラム、入試方式の変更を行いました。



新設された総合工学クラス



主体的で多様な学びを支援する7学科から1学科複数コースへの再編、1年後に専門分野の選択が可能な総合工学クラスの新設、各専門分野においてデータ駆動型研究開発を可能とする数理・データサイエンス・AI 関連科目の強化、大学院に進学後の多様な研究活動を支援する大学院授業科目の先取り、などの新たな仕組みを設け、SDGs、地方創生、およびSociety5.0の実現に貢献できる人材育成を強化します。

「100円ごはん」による学生支援の実施

令和6年1月18日（木）、甲府キャンパス生協食堂および医学部キャンパス売店において、「100円ごはん」の提供を開始しました。

これは、学生サービスの一端として、電気代・ガス代の高騰や物価高に直面している学生を支援するとともに栄養バランスの取れた食事を摂ることで、学生が心身の健康を整え、元気に一日がスタートできることを目的としたものです。



「100円ごはん」のメニュー



サービスを利用する学生（甲府C）



サービスを利用する学生（医学部C）

サービスを利用した学生からは、「思っていたより量も多く、授業がない日でもまた行きたいと思った」「物価高で、食費がかかるので、とても有難い」など、好評が寄せられ、令和6年度も継続して実施する予定です。

【甲府キャンパス】

メニュー：日替りセット（ライス・主菜・みそ汁）150食

朝カレーセット（カレーライス・サラダ）50食

【医学部キャンパス】

メニュー：おにぎり・野菜ジュース 50食

サンドイッチ・野菜ジュース 50食

大村記念微生物資源研究フロウティラ開所

「大村記念微生物資源研究フロウティラ」は、微生物資源を活用して創薬研究を行う組織です。「創薬」という目標に向けて、山梨大学の各分野の研究者が結集し、さらに北里大学とも連携して研究を推進します。山梨大学卒業生で、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智山梨大学特別栄誉博士が特別顧問を務めています。令和6年4月1日から活動を開始、令和6年6月3日に開所式を行いました。



看板設置の様子（大村特別栄誉博士・中村学長）

山梨大学の微生物研究の歴史は古く、特に放線菌の研究には定評があり、多くの貴重な放線菌株が保存されています。

山梨大学が持つ希少放線菌を分離し培養する技術と、北里大学が企業などと共同で医薬品を開発してきた知見を活用して新薬の開発研究を行います。代表的な研究テーマとしては「薬剤耐性菌を殺す新規生理活性物質を産生する微生物の探索」を掲げています。つまり、新規抗菌薬の開発を目指します。



研究施設視察の様子

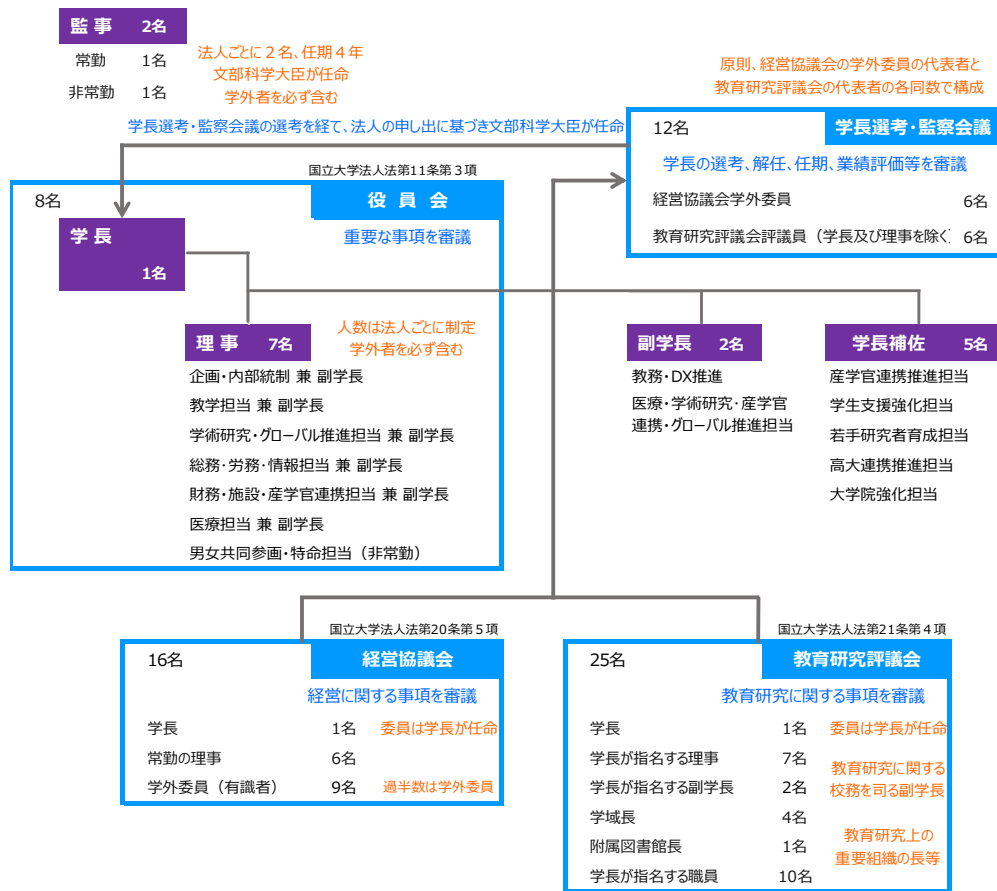
ガバナンス体制

本学のガバナンス体制

本学では、国立大学法人法に基づき、国立大学法人の重要事項を審議する機関として、役員会、経営協議会、教育研究評議会を設置しています。

大学運営の中軸をなす学内資源配分については、学長、理事、副学長による要求事業のヒアリングを行い、戦略的な資源配分について審議が行われます。その後、経営協議会及び役員会を経て、予算編成方針・予算案が決定されることで、大学としてのガバナンス体制が実現されています。

令和6年12月1日現在



役員会	中期目標についての意見及び国立大学法人法の規定により文部科学大臣の許可又は承認を受けなければならない事項、予算・決算の作成、組織の設置・改廃などを審議します。
教育研究評議会	中期目標についての意見や中期計画に関する事項、学則、教員人事、教育課程の編成、学生の入学・卒業、教育研究状況の自己点検評価など教育研究に関する重要事項を審議します。
経営協議会	中期目標についての意見や中期計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、給与基準、予算の作成、決算など国立大学法人の経営に関する重要事項を審議します。

財務運営のプロセス

山梨大学は、大学の基本理念や特性を踏まえて、①大学の教育研究等の質の向上、②業務運営の改善及び効率化、③財務内容の改善、④自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供、⑤その他業務運営に関する重要目標、という区分毎に定められた6年間の中期目標を達成するため、それらを具体的な計画にした中期計画、年度計画に基づいて大学運営を行っています。

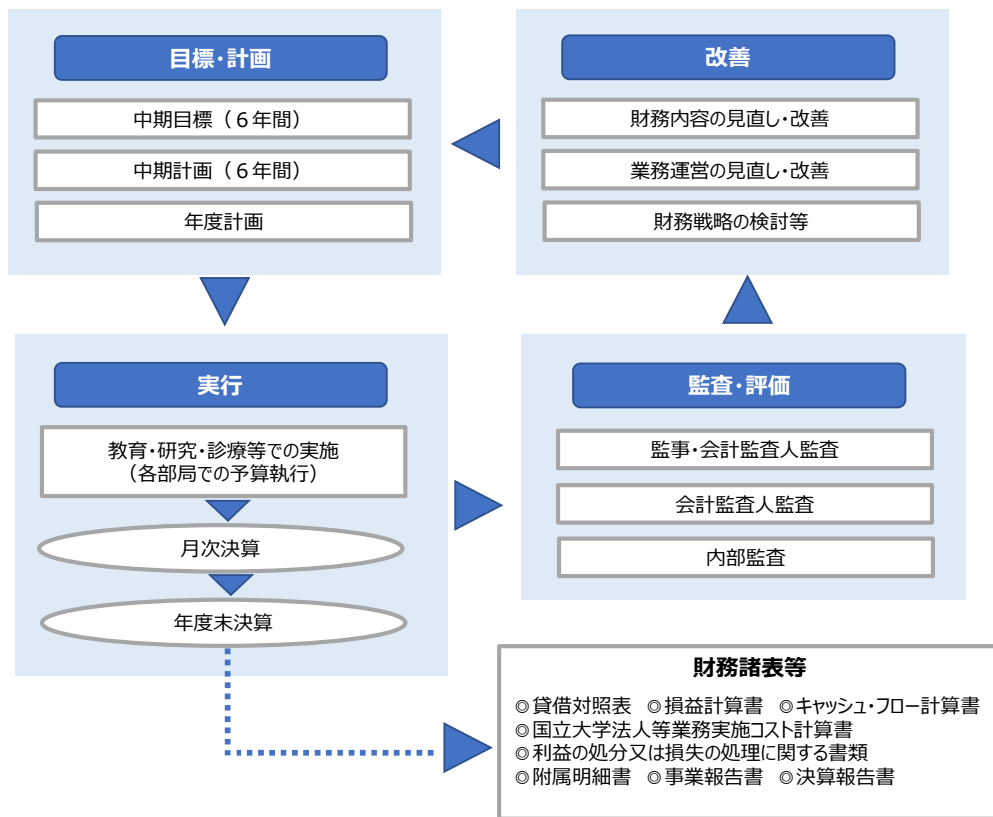
＊中期目標、中期計画、年度計画は、山梨大学ホームページ（<https://www.yamanashi.ac.jp/about/54>）に掲載しています。）

法人化後の財務会計は、企業会計原則に準じた国立大学法人会計基準により会計処理を行っており、企業と同じように複式簿記を導入し、財政状態や運営状況を明らかにすること

を目的としています。この目的を達成するために、発生主義により会計処理を行い、月次処理を経て年度末決算を実施した後、財務諸表等を作成しています。

財務諸表は、当該事業年度の事業報告書、予算の区分に従い作成した決算報告書を添え、監事並びに会計監査人の監査を受けその意見を付し、当該事業年度の終了後3か月以内に、文部科学大臣に提出して承認を受け、一般に開示することになっています。

また、各事業年度及び中期目標期間の教育研究の状況や、業務運営・財政内容の状況を、中期目標に掲げられた諸事項を踏まえて、国立大学法人評価委員会（教育研究の評価は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）が総合的に評価しています。



詳細については、山梨大学ホームページをご参照ください。



国立大学法人特有の会計制度

国立大学法人は公共的な性格を有し、主たる業務は教育・研究であり、利益の獲得を目的としていません。そのため、国立大学法人の会計制度は企業会計原則をベースとしつつ、国立大学法人の特性に即した会計処理が取り入れられております。

■ 国立大学法人会計と官庁会計、企業会計の違い

国立大学法人の会計制度は、企業会計原則を基本としていますが、国立大学という公共的な性格や特殊性を踏まえて、企業会計とは異なる独特な会計制度（国立大学法人会計基準）が採用されています。

区分	目的	利害関係者	利益の獲得
国立大学法人会計	財政状態・運営状況の開示	国民その他の利害関係者	目的としない
官庁会計	予算とその執行状況の開示	国民、住民	目的としない
民間企業	財政状態・経営状態の開示	株主、投資家、債権者等	目的とする

■ 国立大学法人の特性

・事業の実施には国による一定の関与を受ける

高い公共性が求められる国立大学法人は、国による一定の関与を受け、法人単独の判断で意思決定が完結しない場合があります。

・国から負託される役割や機能が発揮されるよう財政措置を受ける

国立大学法人は必ずしも独立採算制を前提とせず、国からの負託業務遂行のため、運営費交付金や施設費等が措置されます。

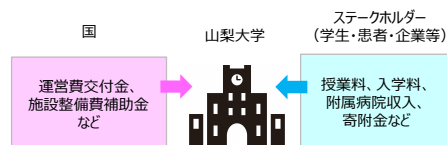
・出資者に対する剰余金の配分を行わない

営利企業のように剰余金を資本主に分配せず、業務実施に必要なものとして承認を受けた金額のみ大学が使用します。

■ 収入財源別の会計処理

国立大学法人の収入には、運営費交付金、授業料などの学生納付金、附属病院収入等があります。

国立大学法人会計では、これらの収入源（財源）の性質に応じた会計処理を行います。



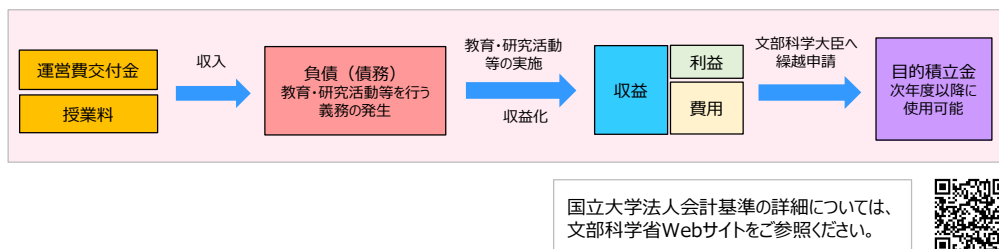
■ 国立大学法人会計特有の仕組み

① 収益化の考え方

運営費交付金や授業料などを受領したとき、業務を実施する義務を負ったと考えて、負債（債務）に計上します。その後、業務の実施により、義務が履行されたとみなし、負債から収益に振り替える会計処理を行います。

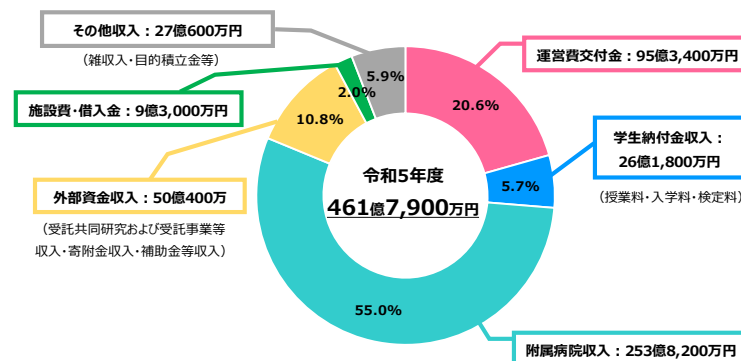
② 国立大学法人の利益

附属病院収入などの自己収入の増加や、経費削減などの経営努力により費用を抑えることができた場合には、利益が生じることになります。利益のうち、文部科学大臣の承認を受けた額については、「目的積立金」として翌年度以降に使用することが可能となります。



山梨大学の運営財源（R5事業年度）

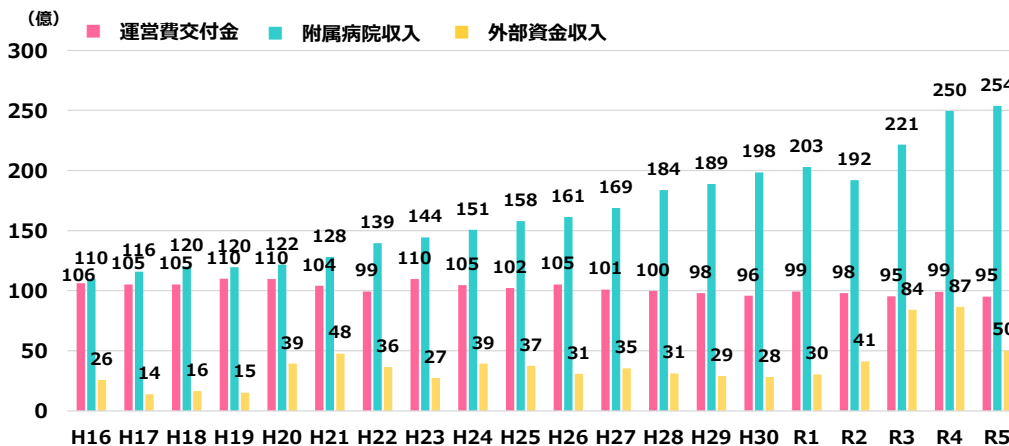
※決算額ベース



本学の収入は附属病院収入が最も多く、全体の55%を占めています。そのほとんどは診療関連の支出に充てられており、運営費交付金、学生納付金、受託・共同研究収益、寄附金収益等が教育・研究・大学運営のための資金となります。

平成16年の法人化後からの本学の主な収入の推移について、以下に示します。

主な収入の推移（H16年～R5年）



運営費交付金



11億円 減

附属病院収入



144億円 増

外部資金収入



24億円 増

国立大学への運営費交付金は平成16年の法人化以降減額され続け、法人化後の20年で約11億円減少しています。そのため、大学で丸となり**外部資金を含む多様な財源の確保及び経費の節減に努めていく必要があります。**

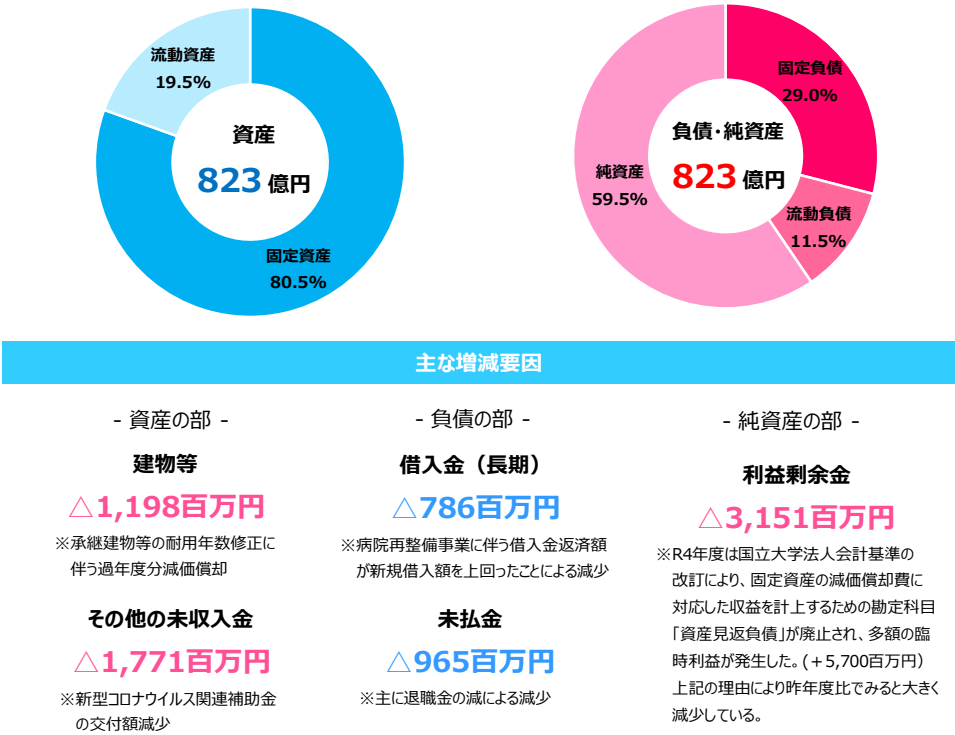
また、運営費交付金の配分にあたっては、一部項目において目標の達成状況や共通指標による評価が導入されており、限られた予算で確実な成果を上げていくことが求められています。

附属病院収入は平成16年の法人化以降右肩上がりに増加し続け、20年間で約144億円増加しています。
令和2年度はコロナ禍による病床稼働率や手術件数の減少により収入が落ち込みましたが、病院スタッフ丸のもと早期に診療体制を整備し、令和3年度以降はコロナ禍以前よりさらに収入を増加させています。
附属病院収入は大学全体の収入の半分以上を占めています。

外部資金収入は全体でみると増加傾向にあり、平成16年度から約24億円増加しています。
運営費交付金が年々削減されていく中、**自己収入の確保において、外部資金の獲得はとても重要**です。
地域人材の養成や連携協定の締結等、産学官金との連携を深めながら、外部資金の獲得拡大に取り組んでいます。
※令和3・4年度はコロナ関連補助金により補助金の収入額が大幅に増加しています。

貸借対照表の概要

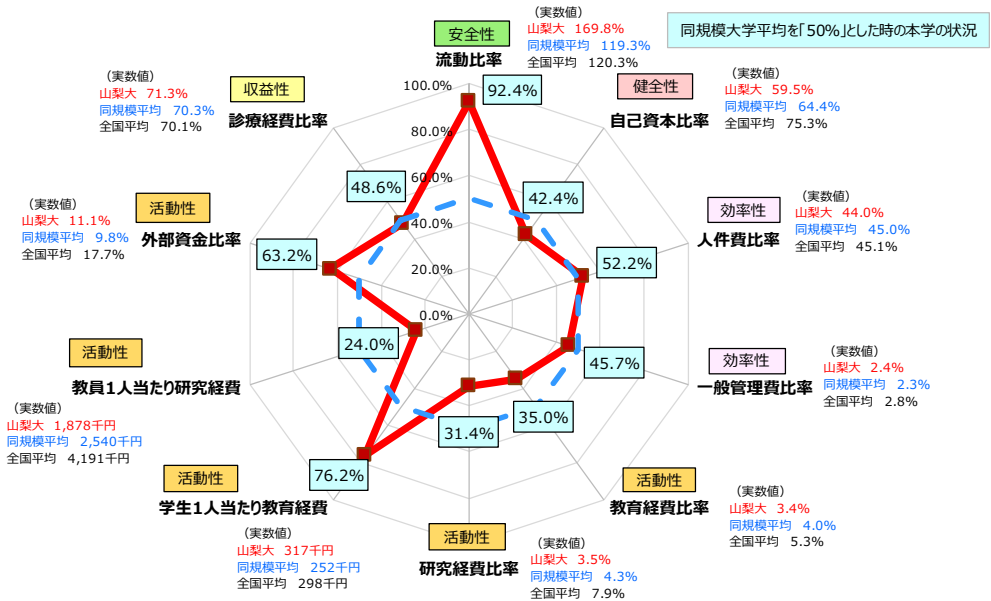
(単位：百万円、単位未満切捨て)						
資産の部	R4年度	R5年度	前年度増減	負債の部	R4年度	R5年度
(固定資産)	68,392	66,232	△ 2,160	(固定負債)	24,832	23,887
1.有形固定資産	65,757	64,288	△ 1,469	長期繰延補助金等	1,464	1,486
土地	23,578	23,492	△ 86	借入金（長期）	22,405	21,619
建物等	33,961	32,763	△ 1,198	長期未払金	580	365
機械備品	5,332	4,963	△ 369	その他	383	417
建設仮勘定	252	441	189	(流動負債)	9,998	9,464
その他	2,634	2,629	△ 5	運営費交付金債務	18	130
2.無形固定資産	122	128	6	寄附金債務	3,314	3,637
3.投資その他の資産	2,513	1,816	△ 697	借入金（短期）	812	835
(流動資産)	18,148	16,076	△ 2,072	未払金	5,247	4,282
現金・預金	10,386	10,385	△ 1	その他	607	580
未収学生納付金収入	46	39	△ 7	負債合計	34,830	33,351
未収附属病院収入	4,526	4,278	△ 248			
その他の未収入金	2,414	643	△ 1,771	純資産の部	R4年度	R5年度
たな卸資産	732	667	△ 65	資本金	34,219	34,219
その他	44	64	20	資本剰余金	1,194	1,615
資産合計	86,540	82,308	△ 4,232	利益剰余金	16,270	13,119
				純資産合計	51,683	48,953
				負債・純資産合計	86,513	82,304



財務指標

以下に示す財務指標は、国立大学法人の財政状態や運営状況を客観的に分析するための基礎となるもので、同規模大学（※）の平均値を「50%」としたときの本学の状況を表しています。（比率が低いほうが望ましい指標（人件費比率、一般管理費比率、診療経費比率）については逆数を用いています。）

令和5年度は、「流動比率」、「学生1人当たり教育経費」、「外部資金比率」の項目で同規模大学平均を上回っておりまして。一方、「教育経費比率」、「研究経費比率」、「教員1人当たり研究経費」の項目において同規模大学平均を下回っております。国立大学法人の財政状況が年々厳しくなっている中、教育研究への更なる投資を行っていくためには、外部資金等の裁量性の高い自己収入を増やす必要があります。



※…文部科学省による財務分析上の分類で、医科系学部とその他の学部で構成され、学生収容定員が1万人未満、学部数が10学部未満である以下の24大学が該当します。

弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、三重大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

項目	説明	計算式	山梨大学		同規模大平均 (R5年度)
			R4年度	R5年度	
流動比率	短期的な支払能力を示す指標（高いほど良好）	流動資産÷流動負債	181.5%	169.8%	119.3%
自己資本比率	総資産における自己資本の割合を示す指標（高いほど良好）	自己資本÷（負債＋自己資本）	59.7%	59.5%	64.4%
人件費比率	業務費における人件費の割合を示す指標（低いほど良好）	人件費÷業務費	44.6%	44.0%	45.0%
一般管理費比率	業務費に占める一般管理費の割合を示す指標（低いほど良好）	一般管理費÷業務費	1.7%	2.4%	2.3%
教育経費比率	業務活動のうち、教育に使用される経費の大きさを示す指標（高いほど良好）	教育経費÷業務費	3.0%	3.4%	4.0%
研究経費比率	業務活動のうち、研究に使用される経費の大きさを示す指標（高いほど良好）	研究経費÷業務費	3.7%	3.5%	4.3%
学生当たり教育経費	学生一人当たりの教育経費を示す指標（高いほど良好）	教育経費÷学生数	279千円	317千円	252千円
教員当たり研究経費	教員一人当たりの研究経費を示す指標（高いほど良好）	研究経費÷教員数	2,031千円	1,878千円	2,540千円
外部資金比率	経常収益に占める外部資金の割合を示す指標（高いほど良好）	（受託研究等収益＋補助金収益＋寄附金収益）÷経常収益	16.8%	11.1%	9.8%
診療経費比率	人件費を除く診療活動に要する経費が病院収益に占める割合を示す指標（低いほど良好）	診療経費÷附属病院収益	67.8%	71.3%	70.3%

財務基盤の強化について

クラウドファンディングによる資金獲得

平成29年度から、教育研究及び地域貢献を目的としたプロジェクトを実施する際に必要な資金を確保するため、クラウドファンディングを実施しております。

令和5年度から新たに業務委託業者を1社追加し、2社体制とすることで、実施体制を強化いたしました。

累計支援総額は約2,500万円、累計寄付者数は859人となっており、今後益々の資金獲得額増加を目指します。

資金運用への取組み

文部科学省からの認定（令和5年度）により、運用可能な金融商品が増加しました。

令和6年度から、新たに第2関係に対応した債券の運用を開始し、現時点において前年度と比較して約800万円の利息収入増を見込んでいます。

今後も積極的に適切な資金運用を行い、大学の財務基盤の強化を図っていきます。

ネーミングライツ事業の推進

令和3年度からネーミングライツ事業を開始し、現在講義室3室を事業に供しています。（ファスフォードテクノロジー様、東芝キャリア様、加藤電器製作所様）

ネーミングライツは、企業の皆様が本学の施設に別称を設定することで、知名度の向上を図るものです。

原則として、本学が所有するすべての施設、教室を対象としており、法人名やシンボルマーク等の設定が可能です。

命名権を付与する期間は3～5年です。

成立した主なプロジェクト

プロジェクト名	実施年度	目標金額	支援総額
患者さんに寄り添う医師・看護師を、地域で育てるための体制整備へ	R6	4,200,000	8,006,000
日本ワイン研究の礎「山梨大学」の情熱で造るALL山梨大学ワイン！	R6	4,000,000	7,803,000
食品ロスをなくそう！食品残渣を活用したキノコ栽培へのチャレンジ！	R5	1,300,000	1,675,000
日本のものづくりの発展のために。更なるシミュレーション研究を	R2	950,000	1,375,000
山梨特有の廃棄物のリサイクルプロジェクト	R2	1,000,000	1,250,000
日本の桃せん孔細菌病の被害を安全に最小限にいとめたい	R2	1,000,000	1,570,000
山梨大学の挑戦！県内のPM2.5による健康被害をなくすための研究	H30	1,000,000	1,130,000
「病は気から」は本当か？	H29	650,000	919,000

